

◆◆◆◆◆ 地域おこし協力隊活動レポート ◆◆◆◆◆

地域おこし協力隊とは、大都市圏に住んでいた方が、地方に移住し、地域の活性化を図るとともにその地での自立定住を目指す取り組みです。協力隊員の紹介、活動内容等をご紹介します。

vol.06 (担当) ^{きたすじ} 北筋 ^{あやこ} 史子さん

長瀬で初めての夏！

長瀬町のみなさん、こんにちは。
ひよっこ移住者・地域おこし協力隊の北筋（キタスジ）です。
わたしが、ここ長瀬に移住をして約9ヶ月が経ち、ついに長瀬での初めての夏を迎えます！
徐々に熱く活気付いてきている町の様子に、とってもワクワクしながら毎日を過ごしています。



そんな日々の活動の中で、長瀬町の若い事業者の方や役場の職員の方、近隣地域の繋がりのある方々と一緒に「地域観光Lab. (ラボ)」という団体を立ち上げました。

自由な発想やアイデアを基に、地域を盛り上げる為の様々なプロジェクトに取り組む新しい形の団体です。
今は、「長瀬ポテチ計画」や「岩畳・映画祭プロジェクト」などそれぞれに興味や関心がある仲間と一緒に実現に向けて活動を進めています。

この地域観光ラボは、誰でも参加可能な団体です。たくさんの人と繋がりを持つことができるような、賑やかで自由なスタイルを目指しています。

「なんだか、おもしろそうだな〜！」と少しでも関心を持ってくださる方がいらっしやいましたら、是非、わたし宛て（長瀬町役場・産業観光課）までご連絡ください！！
メンバーとして活動はしなくても、実現してみたいアイデアだけお持ちの方でも大歓迎です。

1人では形にすることができなかったことを、仲間と一緒に叶えてみませんか？



Instagram

今月のいいとこ長瀬

「長瀬町の つながり がスキ！」

小さな町ですが、長瀬ならではの人のつながり、あたたかさがあると思うからです。
(M・Aさん)

「編集者コメント」

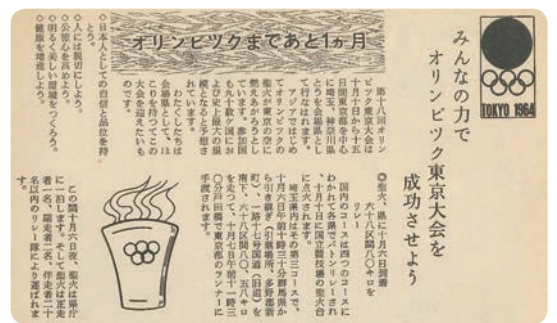
昭和24年に創刊した「広報ながとろ」が、今月号で700号目を迎えたことを記念し、今回は、過去の記事をご紹介します。

今から57年前、昭和39年9月10日発行の「広報のがみ(第94号)」には、東京1964オリンピックの記事が掲載されています。

今月号の表紙でご紹介したとおり、7月7日にオリンピック聖火リレーが行われましたが、ランナーで長瀬町出身の小林咲来さんは、お父さんが小さいころに環七通りを走るアベベ選手を見たという話を聞いて、自分の走る姿をお父さんに見せたいと思い、ランナーに応募したそうです。お父さん思いな小林さんの心温まるエピソードですね。

時代から時代へ、人から人へ、聖火リレーのトーチのように、広報ながとろも、行政と町民の皆様とのつながりを大切にしていきたいと思います。今後ともご愛読のほどよろしくお願いいたします！

つながりを感じられるのは、長瀬町のいいとこ！



(左から 小林咲来さん、大澤町長)